（1）主題名　学校を愛する心　〔小学校高４－（６）〕　関連項目〔小学校高４－（２）〕

（2）ねらい　学校に愛情と誇りを持ち，学校の一員としての自覚を持って，立派な校風をつくろうとする心情を育てる。

（3）資料名　「お父さんのタイムカプセル」（自作資料）

資料の概要
友だちと投げ合いをしていたサッカーボールが当たって，植え込みの中に立っていた古い板をこわしてしまったひろし。その板は，ひろしの父が小学校卒業の時に埋めたタイムカプセルの立て札だったのだ。タイムカプセルに寄せる父の思いと卒業を間近にひかえた兄こうじの卒業制作に取り組む姿に，ひろしの心は動かされるのだった。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　学校にある好きな物について発表する。	○あなたが学校の中で一番好きな物は何ですか。また，それはどうしてですか。 ・おもしろいからブランコが好き ・気持ちいいからプールが好き ・いっぱい遊べる運動場が好き	○学校全般の公共物について，しっかり考えさせる。
展開	2　資料前半を読んで話し合う。	○割れた板をさしこんでいる時，ひろしはどんな気持ちだっただろう。 ・古びた板だから，こわれてもどうってことない ・だまって立てておけば分からない	○どうしてだまって帰ったのかについて考えさせる。
	3　資料後半を読んで話し合う。	○こうじはどんな気持ちで卒業制作を作っているのだろう。 ・どんなのができるか楽しみだ ・みんなでよいのを作るぞ ○その夜，どうしてひろしはお父さんにこわした立て札のことを話す気持ちになったのだろう。 ・お父さんの気持ちを大切にしたいから ・お父さんの大切な思い出の物をこわしたから ◎ひろしは，どんなことを考えていて，なかなかねむりにつけなかったのだろう。 ・学校の物にはいろんな人のいろんな思いがこもっているから，大切にしなくては ・卒業生の人たちの思いを大切にしたい	○お父さんだけでなくお兄さんの気持ちにもしっかり共感させたい。 ○「立て札を壊したのであってタイムカプセルを壊したのではないよね。」と切り返しの発問をする。 ○自分が通っている学校は，自分だけではなくみんなの学校でもあるということに気付かせる。
	4　自分たちの学校について振り返る。	○学校には，卒業生が残していった物として，どんな物があるだろう。 ・壁にかかっている絵 ・木	○自分たちの学校にも卒業生の残した作品があることに目を向けさせる。
終末	5　学校にある卒業制作を見る。	○学校にかざってある卒業制作の一つを見てみよう。 ・階段の所にあるよ ・玄関のところにある絵もそうかなあ	○当時の卒業生たちの気持ちに思いをはせながら，卒業制作の作品を見る。

お父さんのタイムカプセル

【前半】

一郎と健太とひろしは、大休けいにグラウンドでサッカーをした後、ボールを投げ合いながら教室へもどっていました。つい調子にのって児童玄関横の植え込みにまではいって、三人はボール投げをしてしまいました。ひろしが強く投げたボールが奥の方に立っていた板に当たりました。

（しまった。）

と思って、木をかき分けて近寄ってみると、ボールのそばに割れた板が倒れていました。どうしようと思っているところへ、一郎と健太がやってきました。一郎が、

「なにか字が書いてあるぞ。タイムカ・・・。四十八っていう字も見えるぞ。大事な物じゃないのかな。すぐに先生に言いに行った方がいいよ。」

と言いました。

しかし、健太が、

「古びた板じゃないか。割れたまま立てておけば分かりゃしないよ。それにもう三校時が始まるよ。急ごうぜ。」

と言いながら、すぐに割れた二つの板を土にさし始めたので、ひろしもいっしょに両手で強く板を上から押さえていました。

ひろしは、授業中も掃除中もずっとこわれた板のことが気になっていましたが、今日は塾に行く日なので、急いで家に帰りました。

塾から帰って家族といっしょに夕飯を食べている時、父が兄のこうじに話しかけました。

「こうじ、もうすぐ小学校を卒業だな。実は父さん、昨日久しぶりに六年生の時の友だちに出会ってな。タイムカプセルの話になったんだ。なつかしかったよ。父さんたちは卒業する時に、クラスで作ったタイムカプセルを埋めたんだよ。本当に仲のよいクラスだったな。そのタイムカプセルはなあ、こうじとひろしが通っている小学校の玄関の横に埋めてあるんだよ。」

ひろしは、二人のそばでその話を聞いてびっくりしました。あの板はお父さんたちが埋めたタイムカプセルの立て札だったんだ。お父さんがこんなに大切に思っている物をこわしてしまったんだ。どうしよう。ひろしは、迷ってしまいました。

【後半】

夕食後、兄弟二人の部屋へもどると、兄はすでに机の前で何かをいっしょうけんめいに彫刻刀で彫っています。ひろしは、

「兄さん、それ何。」

と聞きました。こうじは、

「卒業制作の壁画を作ってるんだ。一人一人が分担して彫ったものをはめ込んで一枚の大きな壁画にするんだ。クラスのみんなの協力を結集したいい壁画になるぞ。」

とうれしそうに答えました。

それを聞いて、ひろしは急いで階段を下りて父の部屋へ向かいました。ひろしは父の部屋へ入ると、下をむいたまま話し始めました。

「実は今日、サッカーボールの投げ合いをしていて、ぼくの投げたボールが学校の児童玄関横の花だんに立っていた古い板に当たってこわしてしまって。お父さんの思い出の立て札を…。」

そこまで言って、後は涙で声がつまって言葉になりませんでした。

父は、ひろしの肩に手を置いて、

「よく本当のことを話してくれた。いいかい、ひろし、学校には、たくさんの人の思い出のつまったものや、みんなで使う物がたくさんあるんだよ。来年父さんたちがタイムカプセルの回りに集まった時、その場所が大事にされていたらタイムカプセルを開ける前に、三十年前の自分たちにもどれると思うんだよ。」

と言いました。

ひろしは、その夜、いろんなことを考えて、なかなかねむりにつけませんでした。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

児童が楽しく通ってくる学校には，何気なく見過ごしている場所や物がたくさんある。毎日よく遊んだり使ったりしている物ばかりでなく，多くの卒業生たちが思い出を刻みながら作った卒業制作のように今は使っていないけれどだれかが心をこめて作ったものや記念として残してあるものもある。この資料では，卒業の時のことをしみじみと語る父や完成を楽しみに一生懸命壁画を彫る兄の姿を通して，自分の行動を振り返りながら，学校への思いを深めさせたい。

２　指導過程の工夫

導入においては，児童に学校の物を意識させることで，資料に出てくるタイムカプセルという日ごろ目にすることのない物への思いの広がりをもたせるように工夫した。展開においては，資料を分割提示し，さし絵を使いながら読み聞かせをすることで，資料の中の登場人物に共感させたいと考えた。

また，終末においては，実際に自分たちの学校の卒業制作を見るという学習活動を取り入れた。そうすることで，自分たちの学校の卒業生の思いに気付かせることができると考えた。

３　発問の工夫

主人公の心情にそって発問を構成した。中心発問では，補助発問により引き出した主人公の心情をもとに，書く活動も取り入れて一人一人にしっかりと考えさせた。

また，「立て札を壊したのであってタイムカプセルを壊したのではないよね。」と切り返しの発問をすることで，父親への共感をさらに深めることができた。

また，展開の後段では，自分の学校の中にある物について，導入とは異なる視点で目を向けさせることができた。

４　児童の反応

・大切なことが書いてあるんだからタイムカプセルを掘る時に場所がわからなかったらどうしよう。
・タイムカプセルの中に傷がついてないだろうか。
・立て札をこわしただけでなくお父さんの思い出までこわしてしまったなあ。

タイムカプセルを傷つけたわけではないが，タイムカプセルにまで思いをはせている児童も多かった。また，学校内の目立たない物にも目を向け，それを大切にしていきたいという感想をもつ児童もいた。

５　授業後のフォローアップ

児童はたくさんの物に接して学校生活を送っている。学校生活のあらゆる場面において接する物には，いろんな人の思い出がたくさんつまっていることに気づかせていきたい。また，この学習で子どもたちが発見したものなどを写真に撮り，道徳コーナーに掲示するなどして自分たちの学校に対する愛情や誇りを育てていきたい。

（大野西小学校）